

# 全体発表会用パワーポイント

## 分科会NO.13 日本の水輸入を考える

分科会No.13

### 日本の水輸入を考える

1509216 片岡舞子  
1509255 廣田雅俊  
1509318 菊池奏江  
1509420 熊谷 衛

### 発表の流れ

1. 背景
  - 日本は“水の豊かな国”か？
  - Water Footprintとは？ Virtual Waterとは？
2. 目的
3. 方法
  - 作業の流れ
  - Water Footprint Manualの概要
4. 調査結果と考察
5. まとめ

### 1. 背景 日本の水需要

- 日本は世界的に見て、降水量の多い国といえる。
- しかし、日本は農林水産物や工業製品、衣類など様々なものを輸入している。
- それらのものを作るには、水が必要。

→日本は海外の水資源に大きく依存している？

### 国家間の水資源のやり取りを考えるための概念

- “Water Footprint”と“Virtual Water”
- Water Footprint
  - 輸出物資を生産するために、実際に消費された水の量
- Virtual Water
  - 輸入物資を自国内で生産したとする場合に必要な水の量(仮定の量)

### 図にすると...

※水1kg=1リットル

輸入国(日本) 1600kg 1kg VW  
輸出国 1000kg 1kg WF

日本で作る場合、小麦1kgを作るのに水1600kgを使用(見積もり量) 小麦1000kg分として水160万kgが必要

輸出国では、小麦1kgを作るのに水1000kgを使用(実使用量) 小麦1000kg分として水100万kgを使用

### 2. 目的

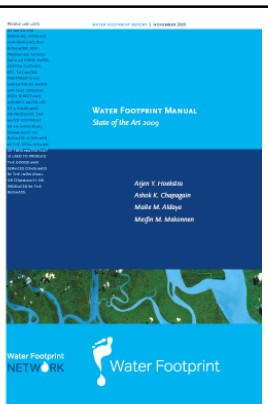
- 「日本は、どれくらい海外の水資源に依存しているのか」を考える。
- “水”を介して、世界の資源や社会・経済と日本の関わりを理解する。
- 日本で作ったほうが水を節約できるものは、なんだろうか？

# 全体発表会用パワーポイント

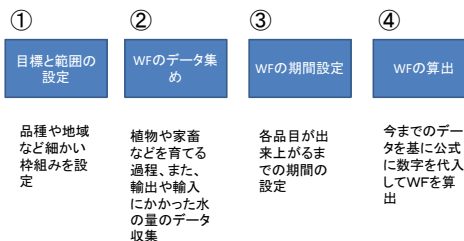
## 分科会NO.13 日本の水輸入を考える

### 3. 方法

1. Water Footprint Manual (英文)を読み、算出方法などを理解する。
2. 各自が関心のある輸入品目に関して、世界のWater Footprintを整理し地図に表す。



### Water Footprintの算出方法



### 4. 調査結果

- 今回の作業では、

- 牛肉
- リンゴ
- コメ
- 小麦

について調査を行った。

### ☆牛肉のWater Footprint

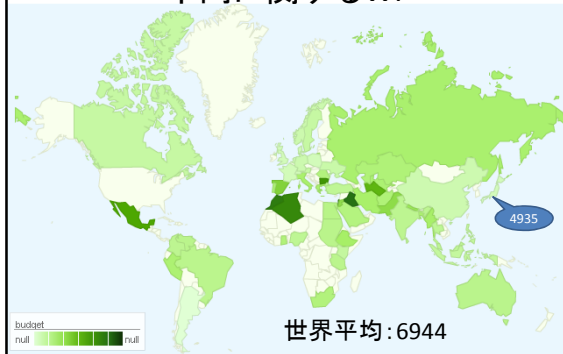
- 日本人の年間牛肉消費量は7.4kg
- 日本の輸入量は世界第3位
- しかし、牛肉の自給率は34%しかない！  
50%以上を維持している鶏肉や豚肉と比べると、はるかに少ない。

→輸入に頼る現状

日本のWFは輸入先よりも少ないので、自国で生産すべき？

※ただし、飼料(トウモロコシなど)の多くを輸入

### 牛肉に関するWF



### ☆リンゴのWater Footprint

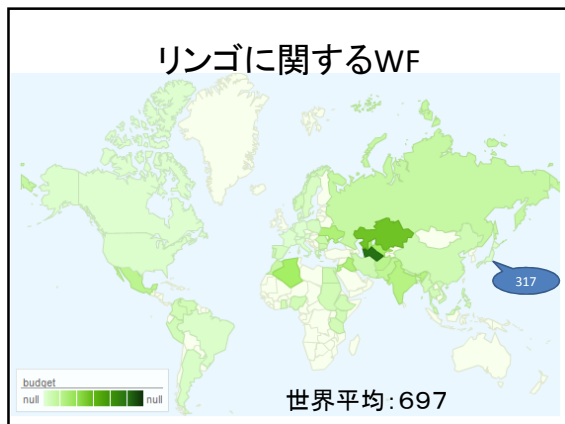
- 野菜・果実は、アメリカ・中国からの輸入が大半を占める。
- 日本は、リンゴ栽培に適する寒冷な気候のため、リンゴはほとんど輸入していない。

自国で生産できているため、海外の水資源の消費(無駄遣い)は少ない！

※国産のリンゴを海外に輸出することで、海外の水資源利用に貢献？  
嗜好品としての輸出は既に行われているが、量は少ない

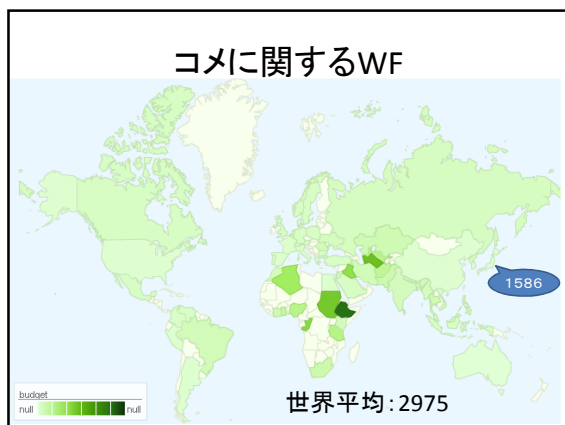
# 全体発表会用パワーポイント

## 分科会NO.13 日本の水輸入を考える



### ☆コメのWater Footprint

世界のコメ貿易の主役は開発途上国  
 ○世界最大のコメ生産国: 中国⇒ほとんどを自国で消費  
 ○輸出量トップ: タイ(26%)⇒輸出国は集中している  
 ○輸入量トップ: インドネシア(15.3%)  
 ⇒輸入市場は細分化  
 しかし・・・  
 ●国際コメ市場の規模は依然として小さい  
 ●世界生産量のわずか5%から7%にすぎない  
 WFの観点からみると、日本は輸入する必要はないのでは？  
 ※ただし、日本はコメの輸入に高い関税をかけているので、輸入せざるを得ない(ミニマムアクセス米)



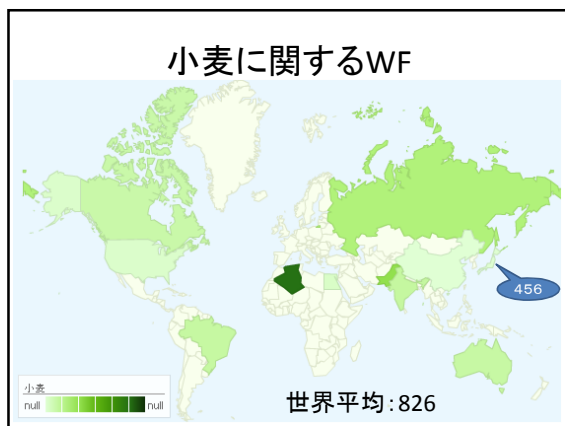
### ☆小麦のWater Footprint

- ・日本の小麦の主な輸入先は、アメリカ(約6割)・カナダ(約2割)・オーストラリア(約2割)
- ・日本はこれらの国々よりもWFの値が小さい

↓

日本で小麦を生産する方が、外国から輸入するよりも、より少ない水の使用で済む。

※ただし、日本の小麦の単収は輸出国よりもはるかに低い



### 5. まとめ

- ・今回調査した品目については、日本で作ったほうが水の節約になるので、自国での生産を進めていくべき。
  - － 関税や貿易協定、生産コストなどの課題の解決が必要
- ・農作物や家畜を育てるのには、適した気候の土地で行うべき。
- ・地球規模での水資源の節約を意識しながら、海外の水資源になるべく頼らないようにしましょう！